

国語

主体的に読んで自分の考えをもち協働的に探究する読書単元の開発

-リテラチャー・サークルの実践を通して-

鎌ヶ谷市立東部小学校教諭（前松戸市立高木第二小学校教諭） あいざわ のりこ 會沢 紀子

従来の「読むこと」の学習指導においては教科書教材中心・教師主導の技能的な授業が多く、児童が受動的な読みしかできず、読書生活にもつながらないという問題があった。これを改善するため、小集団の読書会プログラムであるリテラチャー・サークル（LC）を活用し、3年生と6年生において二つずつ単元を開発した。本研究を通して、LCによる読書単元が、説明的な文章においても文学的な文章においても主体的に読む能力を育成し、考えの形成をするために有効であること、早期に行うことで協働的に探究する態度や読書の楽しみを他者と分かち合う態度を養うことが明らかになった。今後は、継続的に学習指導を行うため、他の学年においてもLCを活用した単元開発をしていきたい。

社会

地域社会の一員としての自覚を高める小学校歴史学習の在り方

-デジタル博物館の活用を通して-

大網白里市立季美の森小学校教諭（前同市立大網小学校教諭） すぎもち ひろゆき 杉持 浩之

大網白里市には、博物館や資料館等の地域の歴史や文化を伝える場所がないという実態がある。そのため、児童は地域の歴史に関する関心が低く、自分が町をつくる一人だという自覚も低い実態があった。そこで、社会科学習において大網白里市デジタル博物館を活用することで地域の歴史を身近に感じ、自分が地域社会の一員であると思えるようにさせたいと考えた。政治学習では、「デジタル博物館の立ち上げ」を題材として市の施策をどのように実現させたのかを学び、歴史学習ではデジタル博物館の活用を通して、国の歴史と地域の歴史を関連させて理解を深めた。その結果、市の歴史や文化財を自分にとって身近で大切なものと考え、受け継ぎ、守りたいという思いが高まった。研究成果を広めていきたい。

算数

主体的に学習に取り組む態度を育てるための指導の在り方

-統計的な問題解決活動の素地づくりを通して-

松戸市立南部小学校教諭 やっはし ゆうた ハッ橋 祐太

平成29年改訂学習指導要領では、「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような姿なのか具体的に示されていない。また、高度情報化社会で児童が生きることを見据え、「Dデータの活用」領域が新設され、統計的な内容等の改善・充実が図られた。そこで、統計的な学習における主体的に学習に取り組む態度とはどのような姿なのかを、具体的に体現する授業を構想する必要があると考えた。本研究では、第3学年の「表と棒グラフ」の学習の段階でPPDACサイクルを回して、問題を見い出したり、目的をもってデータを集めたり、分析したりする主体的に学習に取り組む態度を体現することができた。今後は主体的にも、統計的にもより質の高い児童の姿を体現できるように研究を深めていきたい。

体育

マット運動におけるICTを活用した課題発見する力の向上に向けて

-自作デジタル教材を通した個別最適な学習を目指して-

大網白里市立増穂小学校教諭（前九十九里町立豊海小学校教諭） さとう ひろみつ 佐藤 浩光

GIGAスクール構想により1人1台端末が導入されたが、調べ学習をしたり動画撮影をしたりすることが、文部科学省が求めるICTを用いた個別最適な学びと言えるのか疑問であった。そこで第4学年を対象に、マット運動におけるICTを用いた個別最適な学習を探究した。個々のめあてや振り返りに応じ、達成度を視覚化できるワークシートや技のポイントを見付け、自己の課題発見につなげるデジタル教材を作成し、自己の運動課題を発見させた。その結果、課題解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢が育まれ、思考力・判断力や技能が向上した。報告書には作成したデジタル教材の概要、指導案にはダウンロードできるリンクがあるので、多くの先生に活用してもらい器械運動の楽しさを広めていきたい。

道徳

自己有用感を高める道徳教育プログラム

-道徳ノートを活用した関わり合いを通して-

八千代市立村上北小学校教諭 いとう ほだか 伊藤 穂高

全ての児童が毎日楽しく学校に通えるようにするにはどうすればよいか。その方法の一つとして、自己有用感を高めることが有効であることが先行研究から分かった。自己有用感を高めるために、道徳科を要とし、道徳ノートに対話のハブツールとした関わり合いに重点を置き、道徳教育プログラムを開発し実践を行った。道徳科と学級活動及び行事等を関連させ、家庭とも連携したプログラムの中で、自分や互いのよさについて気付いたり認め合ったりする活動を通して、自己有用感の変容を分析した。その結果、児童の記述分析や抽出児の変容などから、一定の成果が見られた。今後は書く活動が苦手な児童の支援方法や児童が主体的に進める対話活動の工夫、家庭との連携などについて検討していく。

特別支援教育

学習意欲を高め、表現する力を引き出すことができる音楽の授業づくりを目指して

-知的障害のある児童一人一人の実態に応じた目標と内容の明確化-

県立長生特別支援学校教諭 じつかた まさみ 實方 政美

知的障害のある児童の実態を把握するための「音楽に関する実態把握表」、授業づくりをするための「音楽科授業モデル学習指導案」、目標と内容が明確になる「題材の段階別評価規準表」、学習意欲を高め、表現する力を引き出すことができる「音楽科授業づくりチェックシート【特別支援学校版】」を作成した。これらを活用することで、指導・支援の有効性を示すとともに、実態に応じた目標と内容を明確化した音楽科の授業づくりをすることができた。

文部科学省著作教科書（星本）用CDを作成したので、音楽科授業づくりで困っている学校現場で参考資料・音源としてぜひ活用してもらいたい。

特別支援教育課題

知的障害特別支援学校のICT機器を活用した授業改善 -タブレット型端末を用いた高等部作業学習の取組を通して-

県立市原特別支援学校教諭 こうやま かずや 高山 和也

所属校は、知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校である。今日、学習指導要領やGIGAスクール構想等でICT機器の利活用推進が掲げられているが、所属校の作業学習においても、ICT機器の活用方法等について課題がある。そこで、本研究では、高等部作業学習においてICT機器を活用した授業（一斉学習、個別学習、協働学習）を実践し、その結果、各学習場面でのICT機器活用の有用性や改善点を明らかにすることができた。今後は、ICT機器の操作や実践方法をまとめた「市原特別支援学校高等部版作業学習ICT活用マニュアル」と「市原特別支援学校高等部版作業学習ICT活用マニュアル（生徒用）」を活用していき、生徒のよりよい学びを目指すとともに、ICT機器を活用した授業の充実を図っていく。他校の参考にしていただければ幸いである。

教育臨床

教育相談基礎力リストの作成と実践

-教育相談における共通の視点を明らかにするために-

市川市立幸小学校教諭（前同市立南行徳小学校教諭） ねもと あい 根本 安尉
市川市教育委員会教育センター副主幹（前同市立行徳小学校教諭） ひらやま 平山やよい
県子どもと親のサポートセンター指導主事（前我孫子市立我孫子第四小学校教諭） かさい あきこ 笠井 明子
成田市教育委員会教育指導課指導主事（前同市立神宮寺小学校教諭） しまだ しゅくこ 嶋田 淑子

数十名の教師に「自校で教育相談は機能しているか」と問うと、『教育相談週間があるから機能している』『教育相談週間があるだけで機能はしていない』等と教師によって捉え方が様々であることが浮かび上がった。そこで、教育相談の共通の視点を明確にし、個々の教師が日常の学校生活で具体的に理解できる手立てが必要だと考えた。本研究では、前述の視点となる15項目の「教育相談基礎力リスト」を作成し、若年層教員を対象に活用の実践を試みた。その結果、教師自身が自己を振り返ることを通し、教育相談の共通の視点を認識することができ、日常で活用できるリストであることが明らかになった。今後は、より多くの現場で活用できるよう、研修の場や教育相談部会等で広めていきたい。

企業等派遣

企業がもつ経営手法と求めるコミュニケーション力を学ぶ -保護者対応と進路指導に生かすために-

県立特別支援学校市川大野高等学園教諭 おがた かつひろ 尾形 勝浩

学校現場では、これまでの常識だけでなく新たな取組や発想の転換が求められている。ホテル ザ・マンハッタンでの研修を通して、ホスピタリティ、障害者雇用の実態、組織づくりについて学ぶことが、日頃の保護者対応、進路指導、新たな時代の学校づくりに生かせると考えた。研修ではホスピタリティに基づく「最後まで聞く姿勢」や「OJT」、「マルチジョブ」、情報を共有する仕組みを学ぶことができた。

迅速な情報共有や「最後まで聞く姿勢」は保護者対応に、障害者雇用の実態は生徒への進路指導に、「OJT」や「マルチジョブ」の考え方は業務改善に生かすことができる。職員研修での周知や校内研修体制への導入を通し、信頼される学校づくりを図っていきたい。